

⑤高齢期（概ね65歳～）

◆現状と課題

能代市の65歳以上の高齢者人口は増え続けており、高齢化率は30.6%（平成19年3月31日現在）となっています。

高齢期は、健康維持や余暇利用の関心が高く、学習意欲が旺盛で学級、講座等への参加率が高い一方、家に閉じこもりがちな人もみられるなど、個人差が大きい傾向があります。そのため、社会との関わりが薄くなりがちな高齢者へいかに学習情報を伝えるかが課題となっており、高齢者が取得しやすい情報提供を心がけ、人との交わりの中から、生きがいのある生活が送れるよう支援していく必要があります。

高齢者が多くの学習グループで活動している中、メンバーの固定化や減少、リーダー不足等がみられることから、リーダーとなる人材の育成、交流の場の充実が求められています。

定年後の生き方には、個人志向型と社会志向型の二極化がみられますが、豊富な人生経験を次世代へ伝える役割を担っていると考えます。今まで培った経験や知識を活かし、子どもたちや若者に地域の伝統行事や昔の遊びを伝えるなどの役割を担うことが期待されます。

少子化により地域コミュニティの中心にあった学校が統合され、また、子どもから高齢者までが一緒になって楽しみ交流できる地域の行事なども少なくなってきました。世代間交流の機会を積極的に設けて、世代を越えて学び、交流する場づくりに努めることが必要であり、なお一層の関係団体との連携が重要となってきます。

重 点 目 標	施 策 の 方 向 性
1. 高齢者が情報を得やすい情報提供の充実を図る。	学習の情報提供のシステムを整え、グループ等の情報交換、交流の場づくりに努める。
2. 経験や知識、学習の成果を社会に還元する機会の拡充を図る。	豊富な経験・知識を若い世代に伝える場の提供に努める。
	生涯学習ボランティア等、人材バンクの整備に努める。
	地域の生活文化や歴史、民俗芸能を伝承する機会の創出に努める。
3. 世代間交流事業の推進を図る。	高齢者を講師とし、体験学習を進め、世代間交流の機会の拡充に努める。
4. 健康維持、心の健康づくり事業の充実を図る。	関係課と連携し、心と体の健康を増進する機会の拡充に努める。